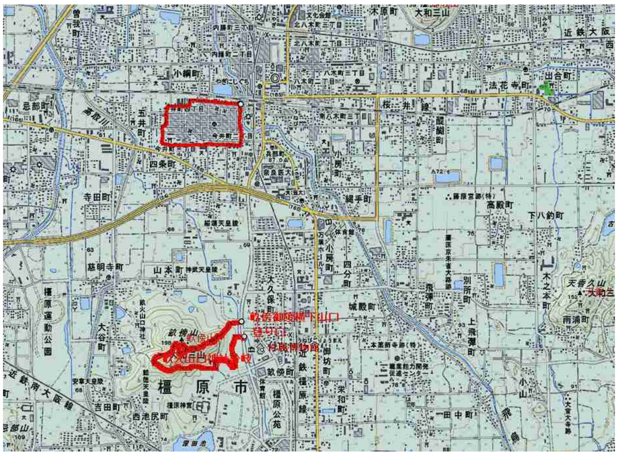
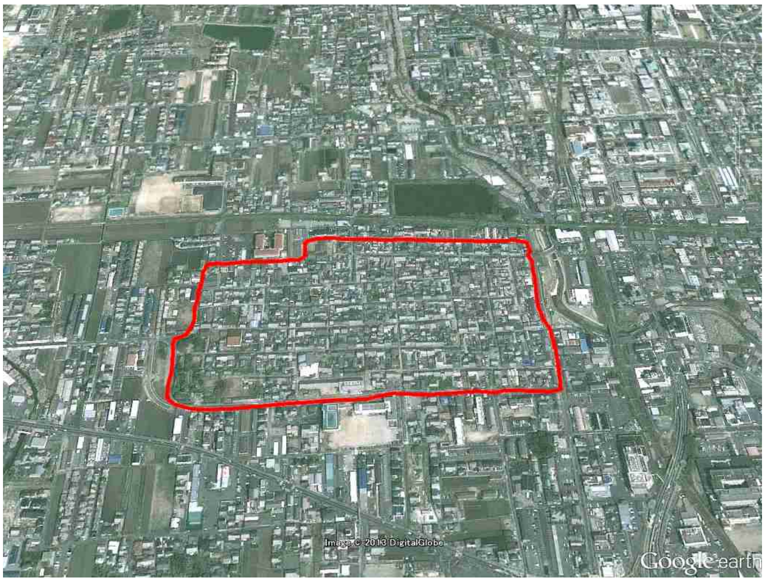
戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区

橿原市今井町　　寺内町「今井」walk　　2013.5.25.

奈良橿原市今井　寺内町「今井」　2013. 5. 25.



中世の環濠集落を発祥とし、称念寺を中心とした寺内町として発展した「今井」。江戸時代にも自治が行われてきた日本でも極めて珍しい歴史を持つ町である。



戦国時代には高い軍事力を誇った今井町は環濠で囲まれており、あたかも城塞都市の雰囲気。　織田信長と敵対して、本願寺とともに抗戦の構えも見せたが降伏し、町存亡の危機に直面したが、今井町ゆかりの今井宗久らのとりなしもあって町はそのまま残され、商業都市として引き続き発展。

現在も広大な領域に戦国時代、江戸時代からの町並みと道路がそのまま残っている(基本的には16世紀のままと聞く)。１９９３年に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、約５００棟が昔からの建築であり、重要文化財８棟、県文化財２棟、市文化財４棟がある。現在も一般の方々が生活する、生きた町であるのも魅力。

写真やTVのコマーシャルなどで出てくる落ち着いた町並みに常々一度　訪れたかった町である。

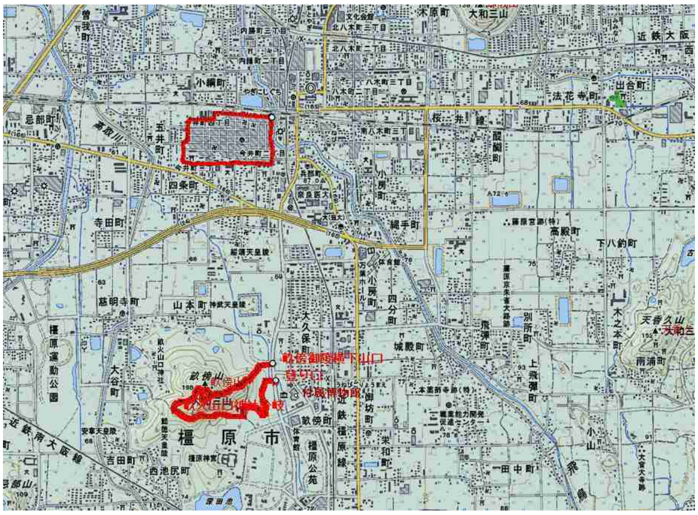
橿原へ行く機会に畝傍山に登ろうと地図を広げていて、畝傍山のすぐ北側　JR桜井線の南に碁盤の目の町割が残る「今井」の地を見つけて、帰りに立ち寄ってきました。

寺内町「今井」はあまりにも有名なので、町並みは残るにしても、町並みそのものが観光化していると想像していたのですが、寺内町「富田林」もそうでしたが、昔の環濠に囲まれた古い町並みの中で　かつての賑わいはありませんが、ごく普通に一般の人が生活している静かな集落。　碁盤の目の町並みとはいえ、かつての武装都市。両側にびっしり商家が建ち並ぶ街中の道はいたるところでカギ状に折れ曲がっており、街中を貫く広い道が作れなかったことが、この落

ち着いた町並みを残したのだろうか・・・。もっとも　そのため、交通の発展・そして車社会の展開から取り残され、今の町並みが残ったともいえる。
街中に車が入れないというのでなく、ちょうどヨーロッパの都市の旧市街地と同じで、対向車がすれ違える程度の幅を持つ道が碁盤の目状に町割されていて、生活道路として車は走れるのですが、通常の街中を猛スピードで走り抜けられない。　日本の車社会そして都市が転換期にある今、この落ち着いた町並みが本当の町並みではないか・・・・と。
重要伝統的建造物群の町並みを観光・商業化車優先で生活空間が忘れ去られた日本の都市を新たに見直す、いい手本と思えた寺内町「今井」ではないか・・・と。
　もちろん　、この伝統の町並みの中で暮らすには　数々の知恵と工夫があるのだとと思われますが、今回はその生活の中身に立ち入ることはできませんでした。
外側からですが、垣間見た戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区寺内町「今井」の walking の写真アルバムです。

《　重要伝統的建造物群保存地区　寺内町「今井」　》

戦国時代　一向宗（浄土真宗）称念寺を中心とした寺内町として誕生した「今井」は　何度か焼き討ちにもあうが、文禄年間には　戸数１１００軒人口約４０００数百人を要する町に発展。

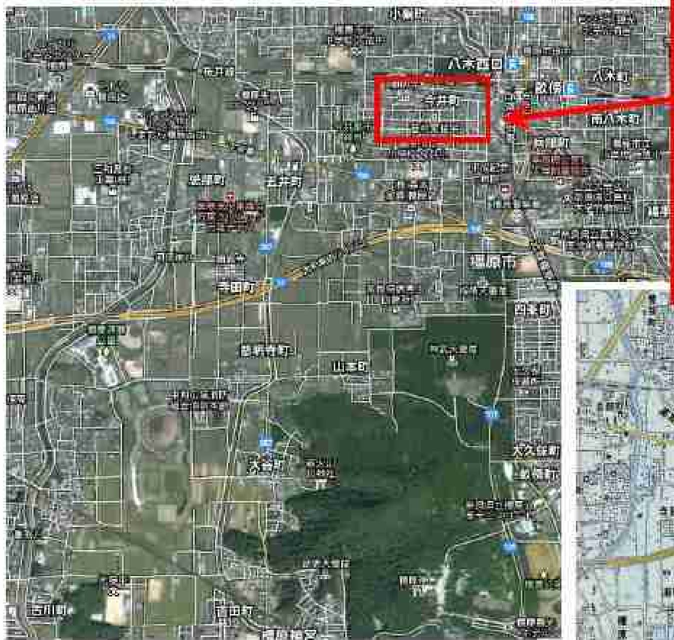


一向宗と敵対する織田信長に対抗するため､東西 600m、南北 310m の周囲に環濠土居を築き、西、南、東、北、新、今の六町に整然と町を分け割、9 つの門から木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連結。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させて敵の侵入に備える」武装宗教都市を完成させ、財力豊かな町として大いに発展した。
本願寺の降伏に伴い、武装放棄しましたが、街はそのまま残り､江戸時代には商工業都市としてさらに発展。俗に､「今井千軒」「海の堺　陸の今井」と呼ばれるほどの財力を持ち、江戸幕府も一目おく自治都市になっていった。
この今井の繁栄は明治維新により富豪が消滅し、大正時代の鉄道開通で町の賑わいが大きく変化してゆくまで続いた。
現在は　かつての寺内町の町割もそのままに、江戸時代以来の伝統様式の町並みがそっくりそのまま残している。
慶安 3 年（1650）の今西家をはじめ、すぐれた民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせている。　しかも、この町並みの中で今も通常の暮らしが営まれているのも魅力。

戦国時代の街並みがそっくり残る重要伝統的建造物群保存地区

橿原市今井町　寺内町「今井」

現在も一般の方々が生活する生きた町であるのも魅力



重要伝統的建造物群保存地区　寺内町「今井」

戦国時代　一向宗(浄土真宗)称念寺を中心とした寺内町として誕生した「今井」は　何度か焼き討ちにもあうが、文禄年間には戸数1100軒人口約4000数百人を要する町に発展。
一向宗と敵対する織田信長に対抗するため、東西600m、南北310mの周囲に環濠土居を築き、西、南、東、北、新、今の六町に整然と町を分け割、9つの門から木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連結。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させて敵の侵入に備える」武装宗教都市を完成させ、財力豊かな町として大いに発展した。
本願寺の降伏に伴い、武装放棄しましたが、街はそのまま残り、江戸時代には商工業都市としてさらに発展。
俗に、「今井千軒」「海の堺　陸の今井」と呼ばれるほどの財力を持ち、江戸幕府も一目おく自治都市になっていった。
　この今井の繁栄は明治維新により富豪が消滅し、大正時代の鉄道開通で町の賑わいが大きく変化してゆくまで続いた。
現在は　かつての寺内町の町割もそのままに、江戸時代以来の伝統様式の町並みがそっくりそのまま残している。
慶安3年(1650)の今西家をはじめ、すぐれた民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせている。しかも、この町並みの中で今も通常の暮らしが営まれているのも魅力です。

南に畝傍山、すぐ傍を飛鳥川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口で

寺内町「今井」は畝傍山のすぐ北側　南へ流れ下る飛鳥川の西岸にあり、すぐ北側に東西に走る桜井線の鉄橋・川に沿って東側を近鉄橿原線が走る。　近鉄八木西口駅・JR畝傍駅が　寺内町「今井」の北東側すぐ　飛鳥川対岸にある。
近鉄八木西口駅を出るとすぐ西に飛鳥川の土手で、桜井線鉄橋の傍に「今井町」の案内板がある。
有名な寺内町「今井」なので、観光名所化しているとおもっていましたが、　ひっそり案内板があるだけ。
「今井」の町の中もまったく同じで、観光化した町並みを創造していたのですが拍子抜け。
伝統的な住居群が立ち並ぶ町並みの中で　今井の人たちがごく普通に暮らしている街。
土産物屋も　町並みを利用した喫茶店もレストランもない。　もう　びっくり。
落ち着いた静かな町並み　寺内町そのものが今井の普段の暮らしの中にそっくりそのまま残っている。
奈良の観光地の真っ只中で　伝統的な住居群の中で、暮らすには規制もあり、大変なのでしょうが・・・・・。
商業化・観光化させずに町並みを残すには住民の協力なしにはできない。
テレビや写真などで見る町並みと暮らしが　何の演出もなしに目の前に広がっている。
寺内町「今井」の重要性をいまさらながら感じました。

2013.5.25.　 by　Mutsu Nakanishi

八木西口の駅をでるとJR桜井線の鉄橋が架かる飛鳥川の東岸
その傍らに寺内町「今井」の案内板がひっそり建っていました　2013.5.25.

南に畝傍山、すぐ傍を飛鳥川が北へ流れ下る寺内町「今井」の入口　2013.5.25.

今井の町はこの土手の右手一帯に広がっている
夕方に行ったこともあって　観光客はほとんどいない
落ち着いた伝統的建造物群の町並み散策ができました

河合家住宅

高木家・河合家が並ぶ中尊坊通り

通りの左側の白い屋根が現在修復中の称念寺
残念ながら修復中で境内に入れませんでした

今井は碁盤の目に整然と町割されているが、
街中の路はいたるところで「かぎ状」に折れ曲がって、走り抜けられない

今井の町並の西端の堀端　今西家住宅の横で

「今西家住宅」

今井の惣年寄筆頭をつとめた家筋である今西家の邸宅。慶安３年(1650年)に建てられた「八つ棟」と呼ばれている建物で、国の重要文化財に指定されている。
本町筋に面した建物は、白漆喰塗ごめの外壁で、入母屋造り破風を前後くい違いにみせ、本瓦で葺いた城郭のような外観をもつ。中は柱をたてず広い空間があるのが特徴で、ここで裁判が行われ、いぶし牢(拷問部屋)も残っている。

旧米谷家住宅

蓮妙寺

今井・寺内町
重要伝統的建造物群保存地区